

## 問題解決力に関する VALUE ルーブリック

詳細は [value@aacu.org](mailto:value@aacu.org) を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用するものであり、成績をつけるためにしようするものではない。この15のVALUEルーブリックに示された、学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUEルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、全ての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

### 定義

問題解決とは、決まった解答のない質問に答えるため、あるいは望ましい目標を達成するために戦略を計画、評価、実施する過程である。

### 概要

問題解決は、学問分野を超えた著しく異なる幅広い活動を含む。学生による問題解決を包含する活動は、模擬実験や実験室の環境において、または実生活の場面での、明確なものから曖昧なものまで幅広い問題を含む。本ルーブリックはほとんどの問題解決の状況における共通要素を抽出し、全ての学問分野において機能するよう意図されている。それは広範囲にわたり、学習者間の個々の違いを考慮する一方で、解決策を導くために問題を考え抜く練習をするため、学生がどの程度それぞれの能力を最大限に活かしたかを定めるにあたり、簡潔で説明的である。

本ルーブリックは、最終成果の質というよりは、過程の質を測定することを意図したものである。その結果、成果事例や、成果集は問題解決タスクに対する個々の学生の思考のエビデンスを含む必要がある（例、問題から、提案された解決策に至る過程に対する省察、問題発見解決型学習課題のステップ、問題解決中の発話思考法の記録）。問題解決を必要とする課題の最終成果は、学生の問題解決過程への洞察なくしては不十分である。焦点は大学機関レベルの評価にあるので、キャップストーンコースで開発されたような、評価チームプロジェクトも適切かもしれない。

### 用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

状況的要因	制約（費用の制限等）、資源、態度（先入観等）、望ましい追加知識など、実世界や模擬環境において問題が最善な方法で解決されるのに影響を及ぼすもの。
批評	様々な視点の分析、統合を含む
実行可能な「既成の」解決策	時間枠、機能性、入手可能な資源、必要な賛同、課題やタスクの限界を考慮して実行できる。日常の経験から馴染みのある簡単な選択肢であるが、検討中の問題に応じて出された解決策ではない（例、資金不足の公立図書館を「救う」ため手作りパン菓子即売会を催す）。
解決策	課題や問題への適切な対応

## 問題解決力に関する VALUE ルーブリック

詳細は [value@aacu.org](mailto:value@aacu.org) を参照



戦略	解決策に行きつくために計画された行動計画またはアプローチ。(もし問題が川を渡ることであれば、共同建設的アプローチ(地域に橋を建設)や個人的物理的アプローチ(一人で泳いで渡る)が考えられる)。不完全なアプローチとは、泳ぎ方を知らない人に、個人的物理的アプローチをとることであろう。
支援	解決策または解決策の選択のための、具体的理論的根拠、証拠等。

# 問題解決力に関する VALUE ルーブリック

詳細は [value@aacu.org](mailto:value@aacu.org) を参照



## 定義

問題解決とは、決まった解答のない質問に答えるため、あるいは望ましい目標を達成するために戦略を計画、評価、実施する過程である。

単独の課題、または複数の課題を統合して、ベンチマーク（基準1）に達しない場合は0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
問題の定義	適切な状況的要因の証拠全てを用い、明確で洞察力のある問題提示を構築する能力を発揮する。	適切な状況的要因の証拠を殆ど用い、問題の提示を構築する能力を発揮し、問題提示は十分に詳細にわたる。	適切な状況的要因の証拠を殆ど用い、問題の提示を構築する能力を発揮し始めるが、問題提示は表面的である。	問題の提示や関連した状況的要因を特定するのに限られた能力しか発揮しない。
戦略の特定	具体的な状況の中で適用し得る複数の問題解決のアプローチを発見する。	問題解決の複数のアプローチを発見するが、具体的な状況において適用し得るものは限られる。	具体的な状況の中で適用し得る単独の問題解決のアプローチを発見する。	単独または複数の問題解決のアプローチを発見するが、具体的な状況の中では適用しない。
解決策・仮説の提案	問題の理解を示す単独または複数の解決策・仮説を提案する。解決策・仮説は状況的要因に配慮し、また、問題の倫理的、論理的、文化的要因の全ての要因にも配慮する。	問題の理解を示す単独または複数の解決策・仮説を提案する。解決策・仮説は状況的要因に配慮し、また、問題の倫理的、論理的、文化的要因のいずれか一つの要因にも配慮する。	単独の解決策・仮説を提案するが、既成のもので、問題の具体的な状況要因に個々に対処するよう意図されたものではない。	単独の解決策・仮説を提案するが、曖昧であるか、問題提示に間接的にしか対処しないため評価が難しい。
可能な解決策の評価	解決策の評価は深く的確であり（例、徹底的で洞察力に満ちた説明を含む）、以下の全てを深く余すところなく含む：問題の歴史の考察、論理・論法の再検討、解決策の実行可能性の検証、解決策の影響の考察。	解決策の評価は充分であり（例、徹底的な説明を含む）、以下を含む：問題の歴史の考察、論理・論法の再検討、解決策の実行可能性の検証、解決策の影響の考察。	解決策の評価は短く（例、説明が深みを欠く）、以下を含む：問題の歴史の考察、論理・論法の再検討、解決策の実行可能性の検証、解決策の影響の考察。	解決策の評価は表面的であり（例、おおまかな表面的な説明を含む）、以下を含む：問題の歴史の考察、論理・論法の再検討、解決策の実行可能性の検証、解決策の影響の考察。
解決策の実施	問題の複数の状況要因に深く徹底的に対処する解決策を実施する。	問題の複数の状況要因に表面的な方法で対処する解決策を実施する。	問題提示に対処する方法で解決策を実施するが、関連した状況要因を無視する。	問題提示に直接対処しない方法で解決策を実施する。
結果の評価	今後の作業の必要性を徹底的、具体的に考慮して定義された問題に関して結果を考察する。	今後の作業の必要性をいくらか考慮して定義された問題に関して、結果を考察する。	今後の作業の必要性をほとんど考慮せずに定義された問題に関して、結果を考察する。	今後の作業の必要性を考慮せずに定義された問題に関して、表面的に結果を考察する。